

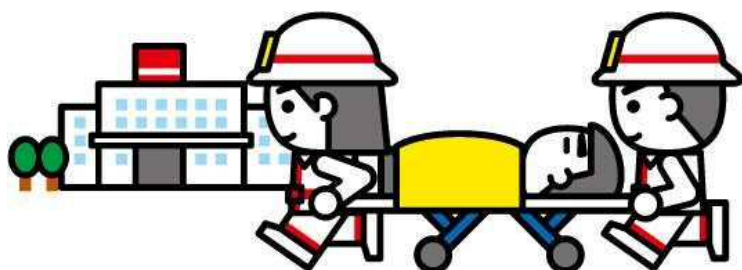
救急隊員への研修体制強化

救急隊員への研修体制の強化について

京都市における救急出動件数は増加の一途をたどっています。今後も、平均寿命の延伸や団塊の世代の後期高齢者化など、これまでにない超高齢化の進展に伴って、更なる救急需要の増加が予測されており、当局では、その対策を講じるとともに、更なる救急業務の高度化を図るため、救急隊員への研修体制を強化しています。

■ 高度救急研修センターでの研修

平成 29 年度から京都市立病院消防出張所に高度救急研修センターを設置し、医師による医学的な観点から指導・助言を受けるメディカルコントロール体制の下で京都市立病院と連携した「現任救急救命士研修」を開始しました。高度救急研修センターでは、知識と経験豊富な指導的立場の救急救命士が、現任の救急救命士に対して救急現場活動に必要な判断能力を養う研修を行うとともに、壬生救急隊に同乗し、現場活動に関する研修を行っています。



■ 救急隊派遣型病院実習

メディカルコントロール体制の下で京都大学医学部附属病院，京都府立医科大学附属病院，京都第一赤十字病院，京都第二赤十字病院，京都医療センター，洛和会音羽病院の 7 病院と連携し，「救急隊派遣型病院実習」を開始しました。医療と消防の連携体制を強化するとともに，救急出動を行った場合には，現場活動に対する判断や処置について医師からの評価を受けることにより，生命の危機的状況への対応能力や病院選定のための判断能力の向上を目的に実習を行っています。

PA 連携活動

救急支援活動（PA連携活動）

京都市消防局では、119 番通報受信時に心肺機能停止状態などが疑われ、救急隊よりも消防隊や救助隊が早く到着することが予想される場合、救急隊と同時に消防隊や救助隊を出動させ、AEDを活用した心肺蘇生法などの救急支援活動（PA連携活動）を速やかに行う体制を開始しました。

■ PA連携活動とは

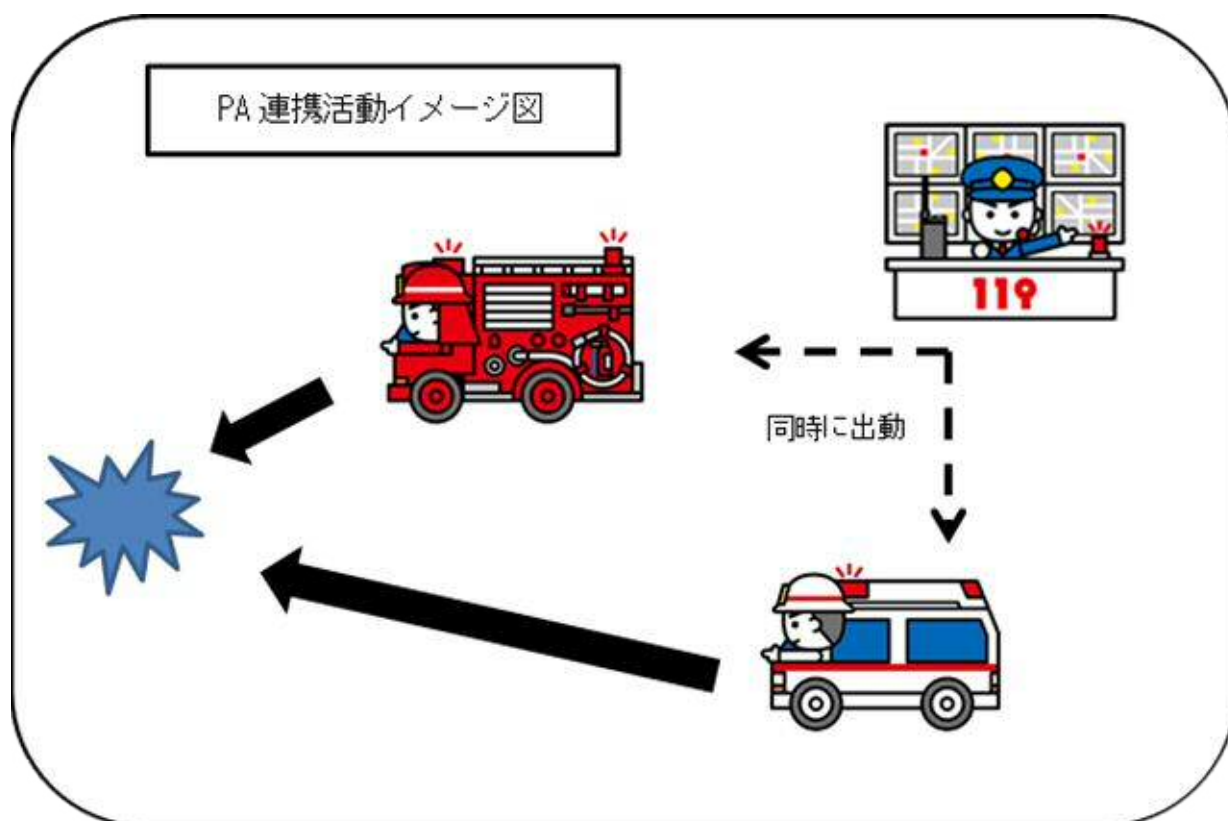
救急現場において消防隊と救急隊が連携して救急活動を行うことの総称です。

ポンプ車（Pumper）と救急車（Ambulance）の双方の頭文字から「PA」と呼ばれ、全国の消防本部において広く使用されている用語です。

■ PA連携活動で出動するとき

- ・119 番通報時に心肺機能停止状態が疑われ、消防隊や救助隊が早く到着できると予想されるとき
- ・救急事故現場の状況（救急隊だけでは搬送が困難である、傷病者や救急隊の安全を確保する必要があるなど）により、救急支援が必要であると認めるとき

※状況によっては、後から消防隊が救急事故現場に向かう場合もあります。



消 防 団 の 取 組

消防団の活動結果

■ 平成 29 年度京都市消防団総合査閲

平成 29 年 5 月 28 日に開催され、各行政区から選抜された優秀な 11 分団が放水訓練等を披露するとともに、女性消防団員による軽可搬ポンプ操法が行われました。

■ 消防団防災ハイスクール

平成 29 年度は、市内の高等学校 25 校で 8,814 名の生徒が受講しました。



平成 29 年度京都市消防団総合査閲

消防団防災ハイスクール

■ 第 4 期消防団充実強化実行チームの活動

平成 29 年度は、71 名の方が参加し、前年度同様に広報・交流・教育のテーマごとに分かれて活動を実施しました。

● 第 4 回京都市消防団フェスタの開催

市民の皆様には消防団をより身近に感じていただき、消防団への入団促進を図るほか、市民の防火防災意識の向上を目的に、「京都市消防団フェスタ」を開催しました。

ブース	子ども消防体験，ミニ消防車体験，防火紙芝居，AED・避難体験，炊出し訓練など
-----	--



会場の様子



応急手当体験



防火紙芝居

● 入団勧奨の取組

地域の各種イベントに出向いてビラやアンケート等を活用し、入団勧奨を実施しました。

● フェイスブックページ「おこしやす消防団」の運営



フェイスブック「おこしやす消防団」



入団促進活動

● 女性・学生消防団員意見交換会の開催

○ 女性消防団員意見交換会

平成 29 年 8 月 11 日と平成 30 年 2 月 3 日に
消防局本部庁舎で開催され、合計 99 名の女性
消防団員が参加し、今後の女性消防団員防火安
全指導隊の活動について、積極的な意見交換を
実施しました。



○ 学生消防団員意見交換会

平成 29 年 8 月 20 日と平成 30 年 2 月 20 日に
消防局本部庁舎で開催され、合計 33 名の学生
消防団員が参加し、更なる入団促進に向けた
活発な意見交換を実施しました。



○ 女性消防団員防火安全指導隊

平成 29 年度からの新たな取組として、分団の枠を超え、各消防団に女性消防団員防火安
全指導隊を設置しました。各女性消防団員防火安全指導隊の名称は、市民の皆様に親しみ
を持っていただけるよう、女性消防団員自らが考えたものです。

女性消防団員防火安全指導隊は、高齢者宅を訪問し、女性ならではの視点で防火指導を行
うほか、街頭広報を行うことで女性消防団員の活動を市民に周知し、更なる女性の入団促進
を図っています。

消防団	名称	消防団	名称
北	チームあじさい	下京	小町隊
上京	すみれ隊	南	女組（めぐみ）
左京	T e a m きらら	右京	ひなげし隊
中京	京隊（みやこたい）	西京	ファイヤーフェアリーズ
東山	火無都里隊（ひなどりたい）	伏見	ひまわり隊
山科	やましな小町隊		



[消防団の事業概要はこちら](#)

[消防団関係の統計はこちら](#)

職 務 研 究 の 推 進

職務研究の取組

■ 消防研究発表会

職員の創意工夫と創造力の発揮により、業務改善等の研究を行った結果について、昭和 36 年（1961 年）から毎年、消防研究発表会を開催しています。そこで発表された研究論文や試作品は各方面から高い評価を得ています。

■ 第 58 回消防研究発表会

研究発表会の研究テーマは、消防装備の開発・改良、消防活動戦術、火災予防のための手法など広範囲にわたります。今回は、市内の各消防署・分署の消防職員が、業務の中で見つけた課題の克服に向けて取り組んだ調査や検証の結果など、12 作品を発表しました。

発表作品のうち審査で選ばれた作品については、総務省消防庁主催の「消防防災科学技術賞」や全国消防長会東近畿支部主催の「消防研究会」に応募し、更に「消防研究会」で支部長から推薦を受けた作品は、一般財団法人全国消防協会主催の「消防機器の改良及び開発並びに消防に関する論文」の募集に応募されます。

また、より効果があると思われる研究作品については、更なる研究及び検証実験を行い、実用化を推進していきます。



● 主な発表作品



教育訓練用透明吸水管



扇状の行進用ラダー

大規模災害への対応

緊急消防援助隊の訓練及び研修の実施

■ 応援体制

緊急消防援助隊は、国内において大規模又は特殊な災害が発生し、都道府県内の消防力では対処ができない場合に、消防庁長官の求め又は指示に基づき、被災地の消防の応援等を行うことを任務とする組織で、消防組織法に規定されています。

当局においても緊急消防援助隊に部隊を登録し、必要な派遣体制を整えており、被災地への派遣を想定した指揮支援隊の研修や、現場活動を行う隊員の食事や宿営地の設営などを担当する後方支援隊の研修を実施しました。

これらの研修の実施により、これまで以上に知識や理解が深まり、緊急消防援助隊派遣の際の迅速な活動に寄与するものと考えています。



■ 受援体制

京都市域において大規模な災害が発生した場合には、緊急消防援助隊制度や、様々な応援協定などに基づき、近隣府県や全国から消防の応援部隊が駆け付けます。

応援部隊を受け入れる消防活動総合センターでは、京都市消防局受援本部を設置し、応援部隊の管理や効果的な部隊運用を実施します。この受援本部の運用体制強化のため、受援本部運用訓練を実施しました。

今後も受援体制の強化のため、引き続き、必要な訓練や研修を実施することとしています。



火災防御活動の強化

糸魚川市をはじめ、他都市で発生した大規模火災の状況を踏まえた木造建物密集地域等における対策

■ 木造建物密集地域を再現した訓練の実施

消防活動総合センターの街区訓練場を活用し、京町家など京都特有の街並みを再現するとともに、細街路や障害物で活動が困難な状況を設定するなど、本市の特色を踏まえた火災想定を設定し、早期に放水の包囲体形を構築することで延焼拡大を防ぐことを目的とした訓練を実施しました。



実施期間	平成 29 年 5 月 23 日～25 日
参加部隊	指揮隊 36 隊、消防隊 108 隊、救助隊 18 隊、延べ 162 隊が参加。
訓練の成果	各隊長の指揮活動・安全管理能力、各部隊の消防・救助活動能力及び各部隊間の連携活動の向上が図れた。

■ 強風下における街区火災を想定した訓練の実施

特別高度工作車（ブローアー車）を活用し、強風下の状況を再現、強風時の放水に対する影響や有効となる放水の検証、延焼阻止線を意識した放水訓練を実施しました。

訓練想定	特別高度工作車（ブローアー車）を設置し、街区建物に向かって風速 5～20 m／秒の強風を再現。
訓練の成果	通常の火災で使用するガンタイプノズルと大規模災害用に導入された大口径ノズルの放水を比較し、強風下における影響を受けにくい放水要領について習熟が図れた。 また、強風下において火災が拡大したときなどに、消防隊等が筒先を効果的に配備し、延焼阻止に当たる放水の防御線をイメージした訓練をあわせて実施した。



■ 木造建物密集地域等における火災防御活動資料の見直し

消防活動等の困難性が予測される地域に対し作成していた火災防御活動資料について、住宅戸数密度及び不燃領域率を新たな指標として加え、対象地域を見直し、資料を策定しました。

見直し前の火災防御活動資料の策定数	見直し後の火災防御活動資料の策定数
109	247

クラシック消防自動車

京都が持つ歴史的・文化的資産の素晴らしさを再認識するため、消防学校エントランスに展示しています。昭和2年に製造されたシボレー消防自動車の水冷4気筒2,800ccガソリンエンジンを撤去し、環境負荷の少ない電気自動車技術により、駆動力に電気モーターを組み込み、京都市内企業の皆様に御協力いただいて実走可能な状態に改修しました。

今後も各種消防行事などでの展示・走行を通じて、多くの市民の皆様の目に触れることにより、消防行政への理解を深めていただけるように活用します。

■ 諸元等

製 造 年	昭 和 2 年
メ ー カ ー	米 国 G M シ ボ レ ー 社
動 力 源	バ ッ テ リ ー 6 個 使 用
サ イ ズ	長さ 4.5m，幅 1.7m，高さ 2m



市府合同による消防学校の取組

市府合同の教育の実施

京都市消防学校及び京都府立消防学校は、平成29年度から市府の連携強化を図る共同教育を京都市消防学校において開始しました。

■ 初任教育

● 京都市消防学校・京都府立消防学校合同入校式

京都府消防長会会長をはじめ、府内の各消防長等が臨席される中、両校の入校生代表者が「初任教育を全力で取り組むことを誓う。」との宣誓を行いました。



● 京都市消防学校・京都府立消防学校合同訓練

救助やポンプ操法、応用訓練など5種類の訓練を実施後、最後は全生徒82名による一斉放水を行い、約1箇月にわたる合同教育訓練の成果を披露しました。



■ 専科教育

現任の職員に専門的な知識と技術を習得させるための専科教育について、救助課程を除く6つの課程を京都府立消防学校と共同で実施しました。

平成30年度からは、全ての専科教育を両校が共同で実施する予定です。



女性消防吏員の活躍推進の取組

取組の概要

女性の活躍推進は、国の成長戦略でも重要な柱として多様な政策が講じられています。

総務省消防庁では、「消防本部における女性職員の更なる活躍に向けた検討会」での検討結果を踏まえて、平成27年7月には、全国の消防吏員に占める女性の比率を平成38年度当初までに5%に引き上げることを共通目標として設定したほか、様々な施策に取り組んでいるところです。

京都市消防局では、平成5年に初めて女性消防吏員を採用してから、既に20年以上が経過しました。採用当初は予防業務などの毎日勤務のみであった職域も、女性消防吏員に係る深夜業の規制を解除する法令改正などを受けて、交替制勤務である救急隊や消防指令センター、指揮隊と順次拡大しました。平成28年度には、管理職への登用及び消防隊への配置、平成29年度には、特別救助強化訓練（水上）の指定隊員に選抜するなど、女性消防吏員の活躍推進に係る取組を進めています。



■ 女子学生向け消防業務説明会を実施

平成29年度は計2回、女性を対象とした消防業務説明会を開催しました。1回目（平成29年5月27日）は消防本部において、女性消防吏員による講演や、消防業務の紹介及び体験、消防指令センターの見学等を実施し、2回目（平成30年3月3日）は消防署において、防火衣の着装体験、消防車両や消防署内の見学等を実施しました。イベント終了後も個別質疑が多数寄せられるなど、多くの女子学生に消防という仕事に興味を持っていただけました。



■ ホームページへの特集ページ掲載

京都市消防局で活躍する女性消防吏員にスポットを当てたWEBページ「京の消防女子」を作成。京都市消防局のオリジナル動画、職員紹介などを掲載し、実際に働いている女性職員の姿や仕事の魅力、やりがいを紹介しています。

→「京の消防女子」は[こちら](#)



■ 女性消防吏員比率の目標設定

総務省消防庁において、平成38年度当初までに全国の消防吏員に占める女性の比率を5%に引き上げることを共通目標とされたことを受け、京都市消防局では、それを上回る6%を目標値として設定しています。平成30年4月1日現在では4.0%となりましたが、更なる増加を目指し、目標を達成するために、大学や専門学校、高校等への積極的な働き掛けを通じて、学生向けの就職説明会やイベント等をこれまで以上に工夫し開催するなどして、女性の採用試験受験者数の増加を図ります。



京都市における女性消防吏員の割合（目標値）	
平成28年度当初 3.8%	→ 平成38年度当初 6%

全国消防救助技術大会への参加状況

全国消防救助技術大会への参加

京都市消防局では、消防救助基本技術の習得と消防救助活動に必要な体力、精神力、技術力を養うとともに、他の模範となる救助隊員の育成を目的として、昭和 47 年開催の第 1 回大会（東京都）から全国消防救助技術大会に参加しています。

全国消防救助技術大会は、全国 9 地区の地区大会（当局の場合は、京都府消防救助選抜会及び消防救助技術東近畿地区指導会）を勝ち抜いた救助隊員が鍛え抜かれた屈強な体力と強い精神力で技術力と迅速性を競うもので、陸上の部（7 種目）、水上の部（7 種目）、技術訓練が実施されています。

■ 第 46 回全国消防救助技術大会の結果

平成 29 年度、宮城県で開催された「第 46 回全国消防救助技術大会」では、京都市消防局から地区大会を勝ち抜いた「陸上の部」2 種目と「水上の部」5 種目において出場しました。

結果は、陸上の部「障害突破」が見事に全国“1 位”の成績を収め、水上の部でも 5 種目中 4 種目で入賞しました。

【陸上の部】	障害突破	1 位（入賞）
	引揚救助	17 位
【水上の部】	複合検索	12 位（入賞）, 19 位（入賞）
	基本泳法	13 位（入賞）, 26 位
	溺者搬送	7 位（入賞）
	人命救助	8 位
	水中検索救助	3 位（入賞）



広報・広聴活動

主な広報活動

■ 市民しんぶんや報道機関等を通じた広報

平成29年度における市民しんぶん（市民版及び区民版）への掲載は、178件となっています。

また、新聞への掲載数は89件、テレビの放映数は42件となっています。

※ 新聞及びテレビとも1案件につき、同日に複数社が掲載や放映を行っても、1件としてカウントしています。

■ テレビ番組の取材

情報番組やバラエティ番組等の特集の一環として、京都市消防局の業務紹介や防火啓発等について取材を受け、その内容がテレビ放送で紹介されました。

放送日	番組名	内容
平成29年 4月22日	日本テレビ 「世界一受けたい授業」	ボクシング元世界王者の亀田興毅さんが消防訓練を体験し、消防活動総合センターの訓練施設などを紹介。
平成29年 9月20日	関西テレビ 「横山由依 (AKB48) がはんなり巡る 京都いんどり日記」	人気アイドルグループ AKB48 の横山由依さんが消防隊を1日体験。消防隊員の業務内容を紹介。

■ インターネットによる情報発信

● ホームページの閲覧数

平成29年度における京都市消防局ホームページのアクセス数は、573,843件となり、前年度比17,013件の増加となりました。

各署（分署）における取組や行事等の様子を地域の消防署ニュースとして積極的にホームページで公開しています。

■ 地域の消防ニュース

- ・各消防署ニュースはこちら
- ・〈西京〉平成30年度危険物安全週間について
- ・〈上京〉仁和自主防災会で普通救命講習会を実施しました
- ・〈山科〉山科区自主防災会連絡会が水災研修を実施
- ・〈伏見〉京都市消防団総合査閲に納所消防分団が出場！
- ・〈左京〉左京消防署消防機械器具点検を実施しました！！
- ・〈東山〉安心安全の取組は、宿泊客へのおもてなしの第一歩！
- ・〈下京〉救急活動に対する感謝状贈呈
- ・〈醍醐〉入所者を火災から守れ！『安心アドバイザー研修』を実施
- ・〈北〉紫野幼稚園児が北消防署へ来署！
- ・〈右京〉京福電気鉄道「常盤駅」に地域コミュニティボードを設置
- ・〈南〉南白衛消防連絡協議会普通救命講習
- ・〈中京〉平成30年春の火災予防運動



● フェイスブックの投稿

平成 29 年度は、493 件の記事をフェイスブックに投稿しました。総閲覧数は前年度比 1,074,425 件の増加となり、皆様の防火・防災への関心の高さがうかがえました。

フェイスブック年間累計（平成 29 年度）	
ページへのいいね！数（お気に入り登録数）	4,844
総リーチ数（総閲覧数）	1,988,158
投稿へのいいね！数	78,438
投稿へのコメント数	393
シェア数（拡散数）	2,666
投稿数	493



京都市消防局フェイスブック

■ 国際交流・視察研修

● 国際交流

平成 29 年度の国際交流は全 7 回行われ、バングラデシュ人民共和国や大韓民国などから計 90 名が消防指令センター、消防活動総合センター等の視察に来られました。

● 視察研修

平成 29 年度の視察研修は、全 19 回行われ、消防関係者や行政関係者等 247 名が消防活動総合センター等の視察に来られました。

視察研修は、他都市等における消防訓練施設や消防出張所等の建造の参考にするなど、消防体制の強化を図る目的で実施されています。これらの機会を通じて、様々な情報交換を行い、他都市等との連携や協力を深めています。



■ 動画の制作

● 「京都市消防局紹介動画」の制作

京都市消防局の職務内容等について紹介する動画。日本語版と英語版を作成しており、京都市公式 YouTube ページ「きょうと動画情報館」で御覧いただけます。

● 同志社女子大学との共同動画制作事業

平成 24 年度から平成 28 年度の 5 年間、本市と同志社女子大学が共同で動画を制作する事業を実施。消防局では平成 25 年度からこの事業に参加しています。これらの動画については、いずれも京都市公式 YouTube ページ「きょうと動画情報館」にて御覧いただけます。

年 度	タイトル	内容
平成 28 年度	ファイヤーウーマン - IN KYOTO CITY -	女性消防吏員の活躍をテーマに、消防隊員をはじめ様々な職種で活躍する女性消防吏員にスポットを当てた女性目線の作品
平成 27 年度	S T E P -若手消防団員の一步- 京都市が揺れたとき -私ができること-	新たな若手消防団員を確保することを目的に若手団員の訓練風景などを取材いただき、ドキュメンタリー風に描いた作品
		自主防災会長と自主防災部長に焦点を当て、大地震が起きたときの役割をマンガ風に紹介したもの
平成 26 年度	Focus On!救急隊	救急隊にスポットを当て、災害出動の件数、現場活動の状況、救急救命士のインタビュー等を映像化したもの。また、救急車の適正利用の啓発も行っている。
	京をまもる ～消防士への道～	消防学校における初任教育、教官や生徒のインタビュー等を映像化し、一人前の消防士となるための道を描いた作品
平成 25 年度	AED さんと君 ～Always be with you～	A E D の使用方法を分かりやすく説明した作品

[京都市消防局動画一覧はこちら](#)

主な広聴活動

平成 29 年度中に「市長への手紙」をはじめ、消防の相談電話や E メール、防火防災指導等を通じて市民の皆様から寄せられた要望や苦情、問合せ等の件数は約 4,200 件で、1 日当たり約 12 件の「市民の声」が寄せられたことになります。「消防の相談電話」では、診療可能な医療機関や火災等の災害発生場所についての問合せなどが約 90%を占めています。

[広報・広聴活動の事業概要はこちら](#)

[広報・広聴活動の統計はこちら（年報）](#)

[広報・広聴活動の統計はこちら](#)

市民防災センターにおけるイベントの実施状況

防火防災イベントの実施状況

ゴールデンウィーク防災フェスタ 2017	平成29年4月29日～5月7日
災害に強いまちづくり講座（Ⅰ）	平成29年6月25日・7月1日
BOSAⅠサマーフェスタ 2017	平成29年8月1日～8月20日
防災展／救急展（防災週間・救急医療週間）	平成29年8月26日～9月10日
防災グランドフェスタ	平成29年9月13日～9月18日
園児の描く消防の図画展示会	平成29年11月～平成30年2月 土・日（計9回）
災害に強いまちづくり講座（Ⅱ）	平成29年9月24日
災害に強いまちづくり講座（Ⅲ）	平成29年11月5日・11月11日
防災フェア2018（防災とボランティア週間）	平成30年1月11日～1月21日
3.11 きずな・京都 一大地震を教訓に -	平成30年3月3日～3月11日
BOSAⅠスプリングフェスタ 2018	平成30年3月17日～4月1日



BOSAⅠ サマーフェスタ 2017



災害に強いまちづくり講座



防災展・救急展



園児の描く消防の図画展示会



防災フェア 2018



3.11 きずな・京都一大地震を教訓にー

鑑識の実施状況

火災鑑識

■ 火災の鑑識等

出火原因の究明に必要なデータを得るため、火災現場から採取した物件の鑑識を行っています。鑑識物件には電気製品、ガス・石油ストーブなどの燃焼器具、自動車の配線などがあり、これらをX線透過装置やデジタルマイクロスコープなど各種分析・鑑識機器を使って、出火原因の究明につながる鑑識を行っています。

● 平成29年度の特徴的な鑑識内容

- ・車両配線の断線部に亜酸化銅を発見し、亜酸化銅増殖発熱現象により配線から出火したものと火災原因を究明。
- ・電気カーペットのカバーラグが特異に変色し、電気カーペットのヒーター線が短絡した事案を再現実験に成功したことで、電気カーペットの局所発熱による危険性を確認したもの。
- ・X線透過画像により基板パターンの溶融箇所を発見。同箇所を分解鑑識し、グラファイトを発見したことで、基板のトラッキングから出火したものと火災原因を究明。



車両の配線の断線部に亜酸化銅を確認。



電気カーペット上のカバーラグの変色の再現実験



X線透過装置で、トラッキングを発見した。

■ 危険物等の性状等の試験

消防法上の危険物及び危険物の疑いのある物質について、引火点試験器、燃焼試験装置、熱分析装置等の機器を活用して、引火点・発火点測定等の試験を行っています。

予防査察の際、ドラム缶 25 缶分の廃液（第 4 類危険物）を発見。同廃液の一部を収去し、即座に危険物判定試験及び引火点測定を実施し、同日中に危険物除去の命令標識を掲示した。



引火点測定器（3 種類）

■ 火災調査に関する資料収集と火災調査や予防情報の提供

消防の科学技術に関する最新の情報を収集するとともに、これをタイムリーに提供して火災予防、市民指導及び火災調査業務に役立てています。

また、京都市消防局ホームページ中の「防火のサイエンス」では、よくある火災原因をテーマに、火災発生の様子などを分かりやすく説明しています。

- ・当局で火災調査した製品や車両のリコール情報のインターネット掲載や、調査技術会議等で発表されたトレーラーの調査事例を、同様事案の火災調査時に情報提供。
- ・当局で作成した火災予防動画を、消費者フェスタ等の場を利用して市民に広報した。